


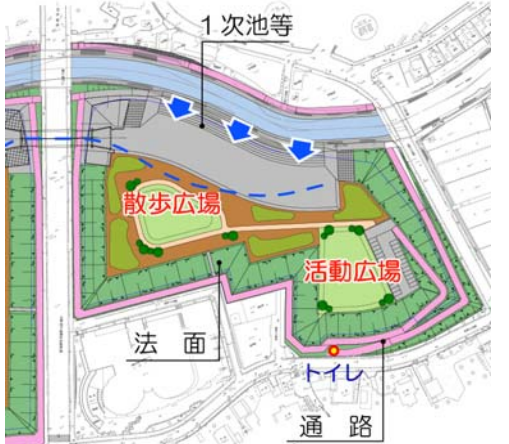


下土棚遊水地上部利用の前提条件の整理

		A池	B池	C池	D池
規模（面積）		全体：約 66,000 m ² （利用可能空間）2次池：約 25,700 m ² （利用制約空間）1次池等：約 12,200 m ² 法面：約 22,100 m ² 通路：約 6,000 m ²	全体：約 23,300 m ² （利用可能空間）2次池：約 8,000 m ² （利用制約空間）1次池等：約 2,900 m ² 法面：約 9,500 m ² 通路：約 2,900 m ²	全体：約 35,600 m ² （利用可能空間）2次池：約 16,200 m ² （利用制約空間）1次池等：約 3,600 m ² 法面：約 12,300 m ² 通路：約 3,500 m ²	全体：約 27,000 m ² （利用可能空間）2次池：約 9,000 m ² （利用制約空間）1次池等：約 5,000 m ² 法面：約 10,000 m ² 通路：約 3,000 m ²
上部利用計画（素案）	池の利用方針	池の広さを活かし、様々な利用者が自由に使う場所とする。	排水施設や一次池を活かすことが出来る施設を導入する	整形な形状を活かすことが出来る施設を導入する	高齢者世代の利用を考慮するとともに、複雑な形状の池でも対応できる施設を導入する。
	利用イメージ	様々な活動の空間 	水と親しみ、憩う空間 	活発なスポーツ利用空間 	憩いや休息の「庭」空間 
	導入機能	<ul style="list-style-type: none"> ■活動グラウンド、活動芝生広場、憩い広場を整備する ■3種類の空間を分割するように園路を整備する ■イベントの利用を想定する 	<ul style="list-style-type: none"> ■子供たちが自然（水や植物）にふれられる空間とする ■住宅地に近い側は公園的な「親水広場」とし、一次池側は自然的な「湿性観察園」とする ■親水広場では湧水を利用し、子どもたちが水遊びをすることができる空間とする ■湿性観察園にはボードウォークを設置し、生物観察や学習の場として活用する 	<ul style="list-style-type: none"> ■少年野球、少年サッカーに必要な広さを確保する ■野球、サッカー以外の運動にも利用する ■一次池は、ボールが入っても支障がないよう、平常時は水を溜めないこととする ※現在の構造では不可 ■サッカーゴールや野球のバックネット等は、移動式の設備により対応する 	<ul style="list-style-type: none"> ■高齢者の利用を想定し、休憩施設やお散歩コースなど配置した「庭」のような憩いの空間とする ■周辺住民や福祉施設からの要望があれば、地域の緑化活動の場として活用する
	利用の例	ジョギング、ウォーキング、ペタンク、グラウンドゴルフ、ターゲットボードゴルフ、多目的広場、イベント、休憩、軽微な運動、etc	親水公園、生物観察・学習、休憩、生物生育空間（立入制限）etc	野球、サッカー、各種運動、etc	休憩施設、散歩コース、緑化活動（花壇など）、etc
冠水頻度※ ※過去12年間の気象庁降雨記録（海老名観測所）より算出		1次池：1.67回/年（36mm/hrで冠水） 2次池：1.50回/年（38mm/hrで冠水）	1次池：2.00回/年（32mm/hrで冠水）、2次池：1.67回/年（36mm/hrで冠水）		